

VIII. 沿革・歩み

- 昭和22年 11月19日 農業協同組合法公布。
- 昭和23年 2月9日 農協設立総会、初代組合長に今井秀太郎氏就任。
農業手形制度創設 5,245万円借入融資。 部落実行組合誕生。
- 昭和24年 国保直営診療所開設。 洋裁学院開設。
部落懇談会開始、そ菜取組開始。
- 昭和25年 組合員1,324名、出資増口計画達成。 共済事業開始。
- 昭和26年 組合長に佐竹 豊氏選任。 土地改良暗渠排水47ha実施。
利用分量割戻金93万余円、剰余金71万余円。
- 昭和27年 7月1日 信用評定委員会設置(委員26名)。
- 昭和28年 農協青年部、農協婦人部設立総会。 役員総会外選挙。
区画整備事業開始(10区)。
- 昭和29年 農業倉庫、全販連表彰。 参事制採用、2/1初代に木村清一就任。
- 昭和30年 佐竹組合長が村長に当選。 出資証券更新(五百円から千円に変更)。
- 昭和31年 冷害危機突破農民大会開催。 道負債整備資金650万円融資。
- 昭和32年 全道初「ブルトーザー区画整理」(栄進3区)。 鶏卵取扱開始。
- 昭和33年 農協10周年記念式典。 共済推進、1億円達成。
食糧庁長官表彰授彰(倉庫整備と保管技術)。
- 昭和34年 組合長に大河庄蔵氏選任。 部落総ぐるみ懇談会開催。
1月15日 豊作感謝祭開催。
- 昭和35年 北海道知事感謝状(米穀集荷業務優秀)。 牛乳の路線集荷開始。
機構改革(3部1室7係2支所)。
- 昭和36年 組合員勘定取引開始(1/1)。 「びっぶ農家だより」創刊。
事務所店舗竣工(9/15)。
- 昭和37年 佐竹 豊氏組合長に再任。 受電施設完工(11区、21区、24区)
比布給油所建設。
- 昭和38年 全共連特別表彰(共済新契約優績)。 近代化貯金開始。
- 昭和39年 ランル支所及び集乳所新築(9月)。
- 昭和40年 比布町農業構造改善推進委員会発足。 ランル給油所新築(出光興産特約)。
- 昭和41年 東園装諦出張所開設。
- 昭和42年 機構改革(1部6課制、土地改良係は課制)。 一日皆貯金開始。
- 昭和43年 農協20周年記念式典。 電気製品推進運動、全購連会長表彰。
- 昭和44年 もみ乾燥施設新築(42,569俵処理)。 コンバイン操業(77戸112.6ha)。
- 昭和45年 日産サニー車取扱開始。 弁当箱購入助成(児童生徒へ配布)。
米の生産調整開始。
佐竹組合長生産連会長就任。 内部審査室設置。
- 昭和46年 生活店舗新築(名称、くみあいストア)。
久保田朝義参事土地改良区転出、遠藤留市氏参事選任。
- 昭和47年 良質米生産奨励(ライスグレーダーに助成)。 農業者年金収納事務取扱。

- 昭和48年 生産調整以来最大1,299.7ha転作。 道負債整理資金貸付け。
明田辰義理事、比布町長に当選。
- 昭和49年 為替業務開始。 家畜預託貸付制度創設。
- 昭和50年 宮武武夫氏組合長に就任。 大型コンバイン処分（2台）。
東園装蹄出張所閉鎖。
- 昭和51年 土づくり運動（モミ殻暗渠、全戸養畜運動）。 店舗利用高奨励開始。
- 昭和52年 第7地区共同籾乾燥施設建設。
第1次地域農業振興計画・農協中長期計画策定。
- 昭和53年 農協の基礎を築いた佐竹 豊氏逝去（9月）。
農協30周年記念式典。 第12地区共同乾燥施設工事完成。
- 昭和54年 堆肥生産施設整備でそ菜の振興。
広域組織（中央部8農協）による審査制度に加入。
- 昭和55年 農機センター新築し自主整備推進。 第1回比布町産業まつり開催（8/7）。
- 昭和56年 集中豪雨で2年連続災害負債累積。
- 昭和57年 転作麦奨励で乾燥調整施設整備（第7地区、第12地区）。
カメムシによる着色米被害に色彩選別機導入。
- 昭和58年 菅原安雄氏組合長に就任。 大西 隆参事退職、久保田昭夫参事選任8月。
肉牛農家激減で堆肥施設直営。 強風により全町的にハウス損害甚大。
- 昭和59年 高額負債農家対策で再建特認資金。 東園支所店舗閉鎖。
- 昭和60年 土地改良事業完了し推進協議会開催。資材店舗改装・金融店舗新装オープン。
- 昭和61年 川上 賢氏組合長に就任。 価格低迷、養豚農家激減。
金融店舗オンライン開始（ATM設置）。
- 昭和62年 野菜栽培農家普及指導協力員設置。 青果物集出荷施設予冷库設置。
- 昭和63年 組勘制度廃止、貯金決済始まる。
- 平成 元年 経営相談で貸付金が繰り上げ償還増える。
- 平成 2年 1品目1億円ほうれん草。 食味水準向上対策事業実施。
- 平成 3年 全量1等米出荷で知事表彰。 第1回びっふ七夕天国開催（8/7）。
久保田昭夫参事退職、工藤博章参事選任（2月）。
- 平成 4年 佐竹春彦氏組合長に就任。 給油施設統合国道40号線に新設。
農畜産物市場開放阻止全町総決起大会開催。
- 平成 5年 意識改革は大凶作でも貯金は伸びる。 倉庫管理農林大臣賞授彰。
- 平成 6年 融資減少、貯貸率減少（12%）。 貯金金利の自由化完了。
管内農協給油所クリーンナップコンテスト最優秀賞受賞。
（食管法廃止）
- 平成 7年 川上 賢氏組合長に就任。 農協貯金100億円達成。
（新食糧法施行）
- 平成 8年 3年連続1等米100%（4度目）達成。 ライスファクトリー増改築着工。
工藤博章参事退職、谷越耕三参事選任。
- 平成 9年 クライシスデザイン方針書実現推進宣言大会（2月）。
（米価大幅下落） 特別営農安定事業の取組み。
- 平成10年 佐竹春彦氏組合長に再任。 いちご販売高1億円突破。

- 平成11年 いちご予冷庫施設取得。 カメムシの被害発生。
- 平成12年 「いちご煎餅」「いちごワイン」の製造販売。
- 平成13年 全道産地7ランク区分で本町は「6ランク」15番目となる。
- 平成14年 安心・安全と売れる米づくりから米の全量「石抜き」作業を実施。
- 平成15年 平成5年以来の大冷害により減収。 比布町水田農業ビジョン実施初年度。
- 平成16年 収穫期の9月に台風18号の上陸で、畑作物の減収、施設の倒壊打撃を受ける。
- 平成17年 豊作分の過剰米を市場から隔離する「集荷円滑化対策」が発動される。
豊作基調で米相場は低迷する。
- 平成18年 2年連続の豊作となり、米相場は低迷することになり、農家所得は豊作とは言えない。
- 平成19年 米ガイドラインの最高ランク5ランク区分浮上 資材課肥料倉庫取得。
- 平成20年 高品質6.8%以下の低タンパク米比率では、96.6%と過去に例がないほど全町的に良食味米
が出荷された。
4月26日セルフスタンドオープン。ガソリン取扱量前年比150%を超える扱い量となる。
- 平成21年 低温・日照不足の影響で、作物全般で減収や品質低下の被害。
水稻の作況は全国「98」、北海道「89」、上川「83」比布町の平均反収「424kg」となる。
- 平成22年 異常気象と思われるほど急激な高温と集中豪雨の影響などにより、いもち病の発生。
米の作況は北海道「98」、上川「97」と2年連続の不作となる。
- 平成23年 米は3年ぶりの豊作となる。作況は北海道「105」、上川「107」。
11月、組合長 佐竹 春彦氏死去。 高橋 英則氏組合長に就任。
- 平成24年 3月末をもってAコープ店舗を閉店する。
米は2年連続の豊作。作況は北海道「107」、上川「106」。
- 平成25年 機構改革により4部9課制となる。
米は3年連続の豊作。作況指数は北海道・上川とも「105」。
- 平成26年 米は4年連続の豊作。作況指数は北海道「107」、上川「108」。
8月中旬以降の天候不良により登熟が進まず、青未熟粒が多く発生した。
- 平成27年 米は5年連続の豊作。作況指数は北海道「104」、上川「104」。
9月、監事 太田 一夫氏死去。
- 平成28年 登熟期の高温と水不足により未熟粒が発生し収穫量が減少。
米は6年連続の豊作。作況指数は北海道・上川とも「102」。
10月29日の根雪で大豆・小豆等、28haが収穫できなかった。
大西勝視氏組合長に就任。
機構改革により3部8課制となる。
- 平成29年 米は7年連続の豊作。作況指数は北海道「103」、上川「102」。
23年ぶりに献穀米の産地に選ばれる。10月23日、皇居にて献納する。
ライスファクトリー改修工事（産地パワーアップ事業）により色彩選別機、受入ライン強化、
鉄コンテナの導入を行う。
9月、代表監事 大西 時男氏死去。
- 平成30年 米は低温、日照不足により作況指数は北海道・上川とも「90」となり平成21年以来の「不良」
となる。「上川管内ゆめびりかコンテスト」において当JAが「金賞」を受賞。